

議 事 録

公開・一部公開・非公開			非公開 部 分 理 由			
部長	課長	課長補佐	係長	文書管理責任者	保存期間	30 () ・ 10 ・ 5 ・ 3 ・ 1 ・ 随
					作成日	令和 3 年 11 月 30 日
係		支払	支払日/担当	支払確認	記録者所属 健康保健課 健康増進係	
		旅費 賃金 報酬	月 日 担当		職・氏名 主任 平沢 希和 印	

会議等の名称	令和3年度第1回東御市健康づくり推進協議会	開催日時	令和3年11月18日(木)
		場 所	総合福祉センター3階講堂
主催者(事務局)	東御市健康保健課	司会者	寺田健康保健課長 中村武人会長
出席者	田中博文氏 五十嵐英美氏 中澤文子氏 尾台芳孝氏 栗原陽子氏 関茂氏 後藤千代子氏 竹内照重氏 翠川洋子氏 中村武人氏 油井照子氏 竹村洋子氏 柳沢さとみ氏 武田順子氏 町田佳彦氏 石谷いずみ氏 岡田真平氏 小林秀行健康福祉部長 寺田嘉彦健康保健課長 武井淳一保健係課長補佐係長 土屋佐知子係長 柳澤亜紀栄養士 笹井涼子保健師 柳澤紀理子栄養士 田村真梨保健師 平沢希和主任 原みずほ主任		
欠席者	酒井康弘氏、小宮山智子氏		

議 題	(議題)	(配布資料)
	(1) 市健康づくり計画等進捗状況について (2) 健康づくりに関する意見等について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 計画概要版3冊 ・ 東御市の健康な暮らしを考える ・ 新型コロナウイルス感染症対策 ・ 保健衛生 ・ 健康とうみ21

討議内容及び経過	(発言者名)	(発言内容)
		あいさつ
		議題
		(1) 市健康づくり計画について
		①第2次東御市健康づくり計画後期計画「健康とうみ21」
	事務局	「健康とうみ21」冊子95ページ、概要版3ページにある通りの基本理念「共に支え合い みんなが元気に暮らせるまち」を踏まえ、健康づくり計画・食育推進計画を推進している。 基本的な目標は「健康寿命の延伸」。日常生活において支障のない生活ができる期間を伸ばしていくということ。計画策定値を今年度に合わせて伸ばしていくことがこの計画の大きな目標となっている。概要版4P以降は、施策の概要等をお示ししているのでご確認いただきたい。「基本方針1 自らの健康は自らつくる」は、5つの基本施策を設け、心身の健康を図っていくための取組をする。P6「基本方針2 食育の推進」は、健康な生活の礎となる食育について、健全な食生活を育むために自ら取り組めるよう推進していく。「基本方針3 健康を支える環境づくり」は、個人の健康づくりの取組を側面から市として支えくことが方針となっている。主に母子保健(各機関との連携)・予防接種(コロナワクチン接種等)・地域の中での健康づくりの充実(主に健康づくり推進員を中心に、地域に合った健康づくり)を推進していく。P9～10の目標の指標についてはご確認をお願いしたい。

事務局	<p>進捗状況について 基本的な目標「健康寿命の延伸」の令和2年度現状値を説明。国等の統計の数字も含まれており若干の時差はあるが、計画策定時より伸びている。要介護認定者の出現率は、計画策定値より下がっている。次に基本方針の説明。</p> <p>(1) 適塩・適糖・適量の推移 当市としては肥満傾向が問題視されているが、小学生についてはやや改善がみられる。フレイル対策として、やせ傾向についての取り組みも推進している。特に小学生女子中心に悪化しているのが現状。家庭・学校の指導含めて今後もお願いしていきたい。</p> <p>(2) 身体活動・運動の推進 1日当たりの平均歩行数は年々減少傾向のため、+10分(1,000歩)多く歩くことを推進していく。</p> <p>(3) 健康的な生活習慣の推進 口腔歯科・口腔保健について、子どものむし歯を減らしていく取組をしている。乳幼児健診では、改善傾向がある。歯周病検診も進めているところだが受診率が上がらないため、歯周病検診を推進していきたい。</p> <p>(4) こころの健康づくり 自殺対策計画を策定、後ほど説明する。ストレスを感じている者の割合が増えている。相談体制を整える必要がある。</p> <p>(5) 生活習慣病の発症予防・重症化予防 特定健康診査の受診率は、50%以上を目標としている。受診率は下回っているが、保健指導については目標値に近づいている。メタボリック予備軍の割合が高い傾向あり。改善を図っていく取組をする。糖尿病についての対策もしていく。</p> <p>(6) 健全な食生活のための食育 子どもの朝食の欠食が問題となっている。朝食と睡眠のバランスについて、保育園等と連携をしながら改善を図っていきたい。</p> <p>(8) すこやか親子の推進 母子保健について。全体的にほとんどの子どもが受診されている。平均して98%以上の受診を目標としているが、R2年度は4か月・1歳6か月健診が受診率100%であり、コロナ禍においても健診を受けていただいている状況。</p> <p>(9) 感染症対策 定期の予防接種の推進。</p> <p>(10) 地域保健の充実 地域ごとの健康づくり事業を推進していく。</p>
	②健康保健課事業概要
事務局	<p>保健衛生35ページの後には、資料No.2「新型コロナウイルス感染症対策」の差し込みをお願いしたい。 直近のコロナウイルスワクチンの接種率について、85%に近い市民の方が2回目接種を終えている。 A3横長の資料は、東御市自殺対策計画に基づいた実施内容・進捗状況を記している。 基本施策4について、出産前後には切れ目のない支援をする等、自殺対策として相談体制を整えている。 基本施策5について、長野県では若年者の自殺率が高いとのことで、学校と連携し、小さいうちからSOSの出し方を学ぶ教育の実施をしている。資料2枚目の重点施策については、記載の通り。</p>
	③東御市の健康状況
オブザーバー	<p>資料「東御市の健康な暮らしを考える」をもとに説明する。 地域で健康学習については、今年で6年目になる。 当市のフレイル予防の取り組みについて、人との接触を避けながら健康づくりをするため、市のホームページにて動画を掲載している。 死因データから、心疾患や脳血管疾患ともに右肩下がりの傾向にあり、生活習慣病予防の取り組みの成果が出ているのではないかと。 次ページの図(左男性の割合、右女性割合)は、生活習慣病予備軍の割合の推移を示している。HbA1cは、血糖値の状態を示す数字で、健診で重要視されているものの一つ。当市では、血糖が高い方が多く、注意喚起の取り組みをしてきた。割合は右肩下がりになっており、要注意に該当する方が減少している。 血圧については、要注意者は国・県に比べると少ないが、男女ともに右肩上がりが増えている。地域の健康状態に注視しながら、市民の皆様にも健康づくりの意識をもっていただきたい。 最後のページ健診受診率について。国民健康保健加入者が対象。健診受診率は伸び悩んでいる傾向にある。突然健康状態が悪くなるのは未受診者が多いため、自分の体を知っていただくことを市民の方へ周知していく必要がある。</p>

会長	①～③の中で感想や意見はあるか。
委員	重点施策4 自殺未遂者等ハイリスク者対策について。 個人情報等の観点から難しいこともあるが、命を取り留めた方に対する支援も手厚くしてほしい。
事務局	市では、消防署・病院などの関係者と情報交換する場を設けている。 個人情報については、どこまで共有できるかは今後の課題。
委員	子どもの定期健診について。受診率が100%に至らなくなると、周囲の職員の支援が入りづらくなることにつながるのではないかと。切れ目のない支援という観点から、健診に連れてこない家をチェックし、受診率が100%になるようにしてほしい。
事務局	新生児訪問から子どもに会えない場合は、年に一回調査をし、必ず担当者をつけることになっている。健診に来にくい家庭には、保健師が事前に連絡をして、健診日の案内している。保育園とも連携し、健診に来てもらえるよう働きかけている。
委員	県では、今年度よりデータヘルスや糖尿病重症化予防の支援員を配置したため、ご活用いただきたい。
会長	ワクチン接種後の副作用や体調不良や家庭内で感染した場合の相談先についての説明があったらありがたかったという市民の声があった。
事務局	家庭内で感染した場合の対応については、市のホームページに掲載しているが、市民の方の目に触れるような形で改善していきたい。
委員	レジューメ資料2P：やせ（BMI18.5未満）の割合で、20歳～39歳女性の割合が高いように思える。割合の根拠は何か。
事務局	国保に加入されている方の健診結果を基に算出しているため、分母としては多くはない。痩せている方への直接的なアプローチはしていないが、全国的に「若い女性の痩せ」について課題になっていることなので、今後対応を考えていきたい。
委員	ゲートキーパーの研修経験がある。研修後に市からの連絡が無く、どのようにしたら良いか分からない。

事務局	ゲートキーパー講座として「ゆるい会」を開催しているおり、研修を受け卒業をされたOBの方に向けて、年度当初にお知らせをお送りしている。年に4回程度集まっていたいただき、講演会や状況報告をさせていただいている。懸案事項で、一つの事業としてOBの方に地域の中での相談支援をお願いできるかどうか検討している。
委員	どのように周知をするのか。
事務局	講座については、毎年市報へ掲載している。問い合わせ先は、健康保健課保健係でお願いしたい。
委員	柘津地域づくりの会では、湯の丸ウォーキングやポールウォーキング、また市の職員や身体医学研究所の先生の指導をいただく機会がある。参加した方は、晴れ晴れとした顔で帰っていく。体の健康はもちろんだが、心の健康も大切だと感じた。地域づくりとしても、地域のやり方で健康づくりに取り組みたい。
委員	がん検診を受けた後に、精密検査を受けないと検診の意味がないので、がん検診と精密検査の受診率が低い点が気になる点である。
委員	健康づくり推進員として、健診の受診率が伸びないという点で、地区の役員としてできることはないか、と考えさせられた。フレイルについて、社会的・精神的フレイルというのは若い世代でもありうるまたは意識するものなのか。
オブザーバー	女性の痩せの方は、高齢になってフレイルになる可能性が高い。フレイル予防は、状態がまだ表面化していないが、年齢を積み重ねていくうちに症状がでてくる可能性があるため、若い世代から考えることが重要であると考えます。
委員	後期計画評価項目（４）こころの健康づくりについて、令和２年度の現状が、計画策定時に比べ悪くなっている項目が多いと感じる。コロナ禍において、制約が多い中で仕事は忙しくなっている状況。そのような中で企業にゲートキーパーを設置することも考えているが、ゲートキーパーの人数の基準はあるか。
事務局	人数の基準はない。
次回への検討	
事項	
次回開催	(日時) (場所)